

赤ちゃんの「重さ」確かめ

9. 25

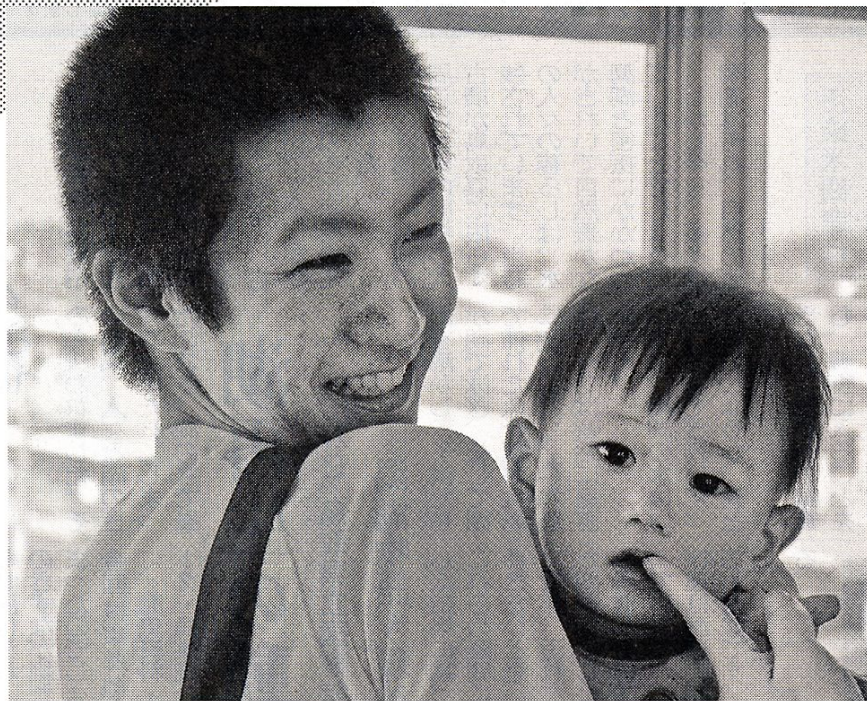
赤ちゃんとその父母らが学校を訪れ、生徒と触れ合う「赤ちゃんの登校日」が二十二日、湯梨浜町田後の北溟中学校で行われ、生徒は赤ちゃんの肌のぬくもりなどを通して、「命の重さ」や人とのかわり方などを学んだ。

赤ちゃん登校日は、同町が鳥取大学医学部の高塚人志准教授を講師に、二年前から町内の小学校で実施。今年から中学校でも実施している。

湯梨浜・北溟中で「登校日」

三年生二十六人が十五組の親子と触れ合った。生徒は、数人ずつのグループに分かれ、抱っこやおむつ交換に挑戦。赤ちゃんの名前を呼んだりしてあやし、命の重さを感じ取るようにしっかりと抱きしめていた。

奥村悠生君(五)は「赤ちゃんと仲良くできて今の自分の姿は、想像がつかなかった。肌はとても柔らかく癒やされます」と自分自身の新たな一面を知った様子だった。



赤ちゃんを抱きしめ、笑顔の生徒

あったかくて柔らかい